



学校だより

6月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～



『たかが』と『されど』を大切にする学校生活

副校長 関根 達

新緑がまぶしい季節となり、初夏の訪れを感じる頃となりました。5月も終わりを迎え、子どもたちは新しい学年や学級での生活に少しずつ慣れ、落ち着いて日々を過ごせるようになってきています。

さて、本校では、日々の学校生活の中で「当たり前のことを丁寧に行う」ことを大切にしています。放課後に、校内を見回っていると、嬉しい発見があります。子どもたちのにぎやかな声が消えた教室には、整然と並べられた机といすが、凜とした空気を作り出しています。まっすぐにそろえられた一つ一つの机。誰もいない教室から、何とも言えないオーラを感じることができます。この教室には、机の整頓の声をかけてくれる子や友達の分まで机を整頓してくれている子がいたのでしょうか。それとも、一人ひとりが自分で考えて整頓したのでしょうか。目には見えにくい心の成長や、日々の小さな積み重ねが、この整った教室の姿となって表れているような気がします。

また、昇降口の下駄箱を見ると、かかとをきちんとそろえて並べられた靴が目に入ってきます。靴をそろえることで、次履くときの行動がスムーズになり、隣の人も下駄箱が使いやすくなります。整った下駄箱は、見る人の気持ちも整え、学校全体に落ち着いた雰囲気を生み出します。下校時に自分の一日の行いを振り返りながら、靴を揃えているのかなと想像するだけで嬉しい気持ちになります。



これらは一見すると、「たかが靴揃え」「たかが机の並び方」と思われるかもしれませんが。しかし、こうした日常の小さな行動の中にこそ、「されど」と言うべき大切な意味があります。このような一つ一つの行動は小さなことではありますが、その積み重ねが、規範意識や責任感、そして他者を尊重する心を育てていきます。「たかが」と見過ごしてしまいがちなことの中にこそ、子どもたちの大きな成長の芽があると考えています。

これから迎える6月は、学校生活がさらに安定し、学びや生活の質を高めていく大切な時期です。本校では、こうした日々の基本を大切にしながら、子どもたち一人一人の心と力を丁寧に育ててまいります。ご家庭におかれましても、靴をそろえることや身の回りを整えることなど、日常の小さな習慣に目を向けていただき、子どもたちの成長を温かく支えていただければと思います。